

東北大学大学院情報科学研究科

シンポジウム開催支援経費	
(1)	学際的研究プロジェクト支援経費 実績報告書
タイトル	バブル経済対策過程の日韓比較
(2) 主催者	日本公共政策学会、東北大学大学院情報科学研究科
期日	平成19年6月9日～平成19年6月10日
会場	東北大学川内北キャンパス、メディアセンター棟
出席者数（講師・パネリスト等を除く）	80名（全体参加者200名）
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	竹中治堅（政策研究大学院大学・教授） キム・ドンワン（金東桓、Jungan University教授） 高安雄一（内閣府・課長） イエホ・イエム（廉載鎬、Korea University教授） 辻中豊（筑波大学・教授）
(3) 目的	日本公共政策学会2007年次研究大会と同時に、90年代における日韓のバブル経済崩壊に対する日韓両国の政策展開について比較考察を行うために、国際シンポジウムを開催することが目的であった。
(4) 内容	90年代前半にバブル経済が崩壊した日本と90年代半ば以降にバブル経済が崩壊した韓国とでは時間差があり、日本は曲がりなりにも独自の立て直しを図った日本の処理過程が遅れ、一方IMFの管理下で迅速な処理を進めた韓国との比較考察を行うことにより、政府の政策展開、経済インフラの再構築に大きな差が生じた点を、具体的な政策を事例として取り上げながら解明を試みた。
(5) 情報科学研究科にとっての意義・貢献度	情報科学研究科との共同開催とすることによって、本研究科が学際的な研究を推進していくセンター的な役割を果たしていることを、全国的なレベルで周知することができた点で大いに意義のあるシンポジウムであり、また、本研究科に取っての貢献度も大きなものがあった。さらに、次年度以降も、日本公共政策学会において日韓国際シンポジウムが行われていく契機となった点でも、大いに意義があった。

注（1）「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。

（2）当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

（3）当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

（4）実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

（5）大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。